生活指導部会

すべての子どもたちへの心理的，教育的援助のあり方

Ⅰ　研究の概要

現代の子どもたちを取り巻く環境には，地域での交わりの過疎化，核家族化や子どもの数の減少，携帯電話・スマホとのかかわり等，様々な問題がある。友達と遊ぶといっても，同じ空間にはいるが一人ひとりがゲームや漫画に興じ，ひとり遊びとなんら変わらないという状況の中では，人間関係，友人作りも容易ではない。また，携帯メールやＬＩＮＥなどを使い，友だちとつながっていないと不安を感じる子どもも増えている。さらに，本来であれば成長の過程で，自然に社会性を身につけ，人とかかわりながら成長していくものであるが，それができないために，学校が居心地よく楽しい場所でなくなってしまっている子どもたちも少なくない。

このような現代社会に生きる子どもたち全てを援助しようとする枠組みが今注目されている。その枠組みでは，子どもに対する援助を，不登校，いじめなどの問題で分類するのではなく，子どもが求める援助の程度に応じて，次のように３段階に整理している。

一次的援助…「すべての子ども」への援助
　　日頃の教育活動，開発的・予防的な活動

二次的援助…配慮を要する「一部の子ども」への援助
　　子どもの苦戦が大きくなり，子どもの発達を妨害することを予防することをめざす

三次的援助…特別に個別の援助を必要とする「特定の子ども」への援助
　　一次的・二次的援助も含まれた総合的な援助

（「石隈・田村式援助シートによるチーム援助」図書文化より）

そして，本部会ではここ数年，一次的援助についての研究を進めている。それは，すべての子どもたちが対象の予防的援助に力を入れることが，問題の顕在化を防ぐことにつながると考えたからである。問題が起きる前から，学校集団作りや個々の子どものコミュニケーション能力の発達のために機会を設け，意図的に自分作りをうながす取り組みや，人間関係の力を身につける取り組みをしていく必要性がある。その方策として，エンカウンター，アサーション，ソーシャルスキルトレーニングなどを日常的な指導に取り入れてみようと研究を進めてきた。そして，これらを用い，それぞれの発達段階に応じた学級指導などの実践を発表し合い，検証に努めている。さらに河村茂雄先生が開発したＱ－Ｕアンケートについても学び，Ｑ－Ｕアンケートをいかした「すべての子どもたちへの援助のあり方」についても探っている。

Ⅱ　研究の具体的内容と方法

１　エンカウンターを取り入れた集団作りについての実践発表

２　学習会

（１）「生活指導」「ガイダンス」から考える本部会の研究の方向性

（２）与論島「島立ち」から，子どもたちとのかかわり方を考える

３　授業研究

（１）8月30日実施

山梨南中学校　　加藤紀子　教諭

題材　：「合唱コンクールダイヤモンドランキングを作ろう」

ねらい　：自分が学級や学校の一員であることに自覚を持ち，互いに協力し合って集団を向上させていこうとする意欲を高める。

（２）2月5日実施

塩山南小学校　　堀内美紀　教諭

題材　：「友達と協力する心を磨こう」

ねらい：児童会選挙の活動を振り返り，６年生を送る会に向けてさらに全員で協力する気持ちを高める。

Ⅲ　成果と課題

人数の少ない部会ではあるが，出席率もよく，熱心に研究されたと思う。本部会では課題のある子どもではなく，すべての子どもたちを対象に研究しているところがよい。それぞれの個性が学級作りに反映されていて，お互いに学び会える実践を発表し合えた。部員は小学校，中学校の教諭がおり，それぞれの視点でいろいろな話をすることができる。児童生徒の成長を感じることができたり，教科担任制（中学校），担任制（小学校）それぞれの特性を知り，それを生かせるようにしていきたい。

研究授業で，他校の先生方に参観してもらうことは子どもたちのよい刺激となり，いっそう頑張ろうとする意欲が見られた。授業のあとの学級の様子を継続的に報告し合うことで，情報交換をし，またそれを子どもたちに還元するようなこともよいだろう。

エンカウンターを取り入れた学級作りの実践発表，研究を通し，通常のかかわりの中ではなかなかコミュニケーション能力を身に着けることができない子どもたちの様子が確認された。子どもたちは人間関係について非常に気を遣い，衝突することや周りから浮くことを避けている。ありのままの自分を出すことはせず，それぞれの場面に応じていろいろな仮面をかぶっているようである。エンカウンターは仮想ゲームの要素があり，仮面をかぶったままで人間関係のトレーニングをすることができる。社会が変化，子どもが変化している中，学校に求められることは増えている。その中で子どもにつけたい力，目標を設定し，適切な支援を行いながらも子ども自身が学ぶようにしていきたい。保護者との連携も大切であり，共に子どもたちの自立を促すような共通意識をもつことの大切さも確認された。さらに，情報を得る手段として，スマホやインターネットの普及に伴い，新聞やＴＶから離れている家庭も増えているように感じる。価値ある映画や映像など，よいものに触れさせる機会を作ることも，部会の可能性として考えられると話題となった。もう少し多くの先生方に本部会に参加してもらえるとさらに研究が深まるだろう。